

2021/7/3

オマケの英語教室

今あるものを使おうシリーズ

ショートカット (short-cut) 書庫版



直接その言葉を知らなくても、知っている言葉で同じ結果、効果を生み出すものを、まずは代用的に使ってみるようにしています。

直ぐには辞書を引きません。

確かに語彙は増えませんが、仮に英語を人様にお教えするときに、矢鱈と単語をぼんぼん打ち出すのは、相手に恐怖以外の何物をも与えない気がするからです。

鼻からやる気をそぐことにしかならないような気もしますし。

それでなるだけ「宝の持ち腐れ状態」になっている中学卒業までに習った有り物を再活性化すべく活用するようにしております。今風に申せば、一種のエコでもあります。

新規の時に発生する余計な記憶エネルギーを使わず、既に持っている記憶の呼び出しエネルギーだけ使うという意味で、個人の学習恐怖克服負荷エネルギーを減らすわけです。

前置きが長くなりました。

処で本日のお題の「ショートカット」

我が国ではショートカットヘアがもっと一般的に想起されるアイテムだと思われませんが、本日のショートカットはパソコン画面上でのそれ。

パソコンをお使いの方ならお馴染みでしょうが、敢えて説明いたしますと、パソコン画面上に置かれた右伸び上がりの矢印マークの付いたアイコン達です。

日本語にすると「短縮」とか「近道」という意味合いです。

パソコンでは、格納されたプログラムなりファイルやフォルダーをいちいち格納先まで探しに行かなくても、このショートカットアイコンをクリックするだけで直ぐにそれらが呼び出せるという意味で「短縮」乃至は「近道」なのです。

そこでまた、はたと思いついたのが short-cut という英単語も前回の sandwich 同様に別な活用ができないだろうか、という事です。

例えば

This route is a short-cut way.

(このルートが近道の一つだ)

は成り行き上当然としても、更にその先の活用例として、例えば

Never have done too much short-cut ways.

(手抜きばかりするんじゃねえ=手抜きをしすぎるんじゃねえ)

つまり「近道」という肯定的な意味を、逆手に取って否定的な意味の「手抜き」と訳した訳です。

試しに当店のコックさん相手に「冗談」の一部として使ってみましたが(うちでは手抜きは致しておりませんので)これも、通じたようでございます。

同じ言葉でも使われる状況によって別の意味を持つてくる場合がある、と知ることはコミュニケーション上、結構有効な武器になる気がいたします。

語注)

既出の英文で使った too much の much は、本当は many なのでしょうが、muchの方が語呂がいいので敢えて今回の例文では much を使いました。悪しからず。